
なぜ何もないのではなく、何かがあるのか？

夕立の庭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なぜ何もないのではなく、何かがあるのか？

【Nコード】

N1672Y

【作者名】

夕立の庭

【あらすじ】

暗闇から生まれたものが様々なものを生み出していく物語。

何もないように見えても何かがあるのかもしれない。

何かあるように見えても何もないのかもしれない。

何かが生まれ、何になるのか。

何もないから生まれた何か

そこには暗闇があつた。

全ては暗闇から始まつた。

やがて暗闇からは微小な塵が生まれていった。

塵たちは暗闇を舞い、次々と生まれる塵と混じり合つていった。

塵たちは塊となつた。

塊たちが生まれてから長い時間がたつた。

今や暗闇には塊たちがあふれていた。

塊たちは様々な形をしていた。

大きいもの、小さいもの、平べったいもの、軽いもの、重いもの、歪なもの、丸いもの。

塊たちは暗闇を舞い、互いに出会い、互いに混じり合い、大きくなつていった。

中には互いに出会い、互いに崩れるものもいた。

中には出会わないものもいた。

塊たちは出会い、混じり、変化していった。

様々な塊たちと出会い、大きくなったものは、更に多くの塊を呼び寄せ、やがて星となった。

様々な塊たちと出会い、崩れていったものは、数多の塵と熱を生み、暗闇を照らす光となった。

様々な塊たちと出会わなかったものは、いつか出会った塊を夢見て暗闇を廻った。

暗闇を照らす光たちのおかげで暗闇は暗闇ではなくなった。

光たちは増え、やがて星たちに降り注いだ。

暗闇から数多の塵が生まれ、数多の塊が生まれ、数多の星が生まれた。

数多の星は数多の命を生み、数多の魂を生んだ。

数多の魂は廻る。

ある魂は多くの魂に出会うために。

ある魂は暗闇を照らす光になるために。

ある魂はいつか救われることを夢見て。

数多の魂は廻り廻る。

第一話 輝きの星

数多の星たちの中に、一際輝くものがあつた。

しかし、その星自身が光を発していた訳ではなかった。

その星には海があつた。

一面の銀色が波打ち、降り注ぐ光の全てを反射していた。

海は水銀でできていた。

銀色の海は、絶えず揺れ動き、空と海をゆっくりと混ぜ合わせていった。

やがて輝く星に、空と海を繋ぐ大地ができた。

その辰砂しんじの大地は朱色を呈していた。

朱の大地の誕生は、光に大地に降り注ぐことを許可した。

光は大地に降り注ぐと、輝く星に熱をもたらした。

大地は熱に炙られ、やがて黒く変化し、そして水銀へと戻っていつ

た。

幾度も幾度も大地が生まれ、海へと還っていった。

最初に大地が生まれてから幾劫いくじょうもの時が流れ、ついに大地は海へと還ることを止めた。

朱の大地はその内に銀の海を抱え、自らを焦熱しやうねつから守ることを覚えた。

朱に抱かれた銀は穏やかになり、波打つこともなく、静かにそこに在った。

やがて朱の大地は、銀の海を盾にし、星を支配していった。

今や大地は星を埋め、光に焦がされた大地が生みだした雲が星を覆っていた。

星は輝きを失い、雲で覆われた朱の星となった。

第二話 蠢く銀塊

輝きの星は輝きを失い、銀の海は朱の大地へと変わった。

朱の大地により生みだされた雲は全てを覆い尽くした。

雲は光を退け、雨を生みだした。

雨は大地を濡らし、新たなる海を生みだした。

僅かに残された水銀の海は新たなる海の底へと沈んだ。

かつての水銀の星から銀の色は消え去った。

雨の海は波打ち、朱の大地をゆっくりと削り溶かし、その成分を取り込んでいった。

朱の大地から生み出された小さな塵たちは雨の海を浮遊し、次第に数を増やしていった。

光ささず、熱もない、暗く冷たい海の中では、塵はただ永劫漂うだけだった。

そこへ変化が起きた。

冷たい雨の海に突然熱が生まれた。

海底の奥深くから水銀が熱を連れて蘇った。

かつて雨の海に抑圧された水銀は、いつしか海底の底の底へ潜り込むことを思いついた。

そこで出会った熱という武器を掲げ、復讐の時を待っていた。

それが今だった。

水銀の復活は雨の海を一変させた。

水銀は、漂う塵を、雨の海を、熱という武器で支配し、己に取り込み始めた。

熱が変化を生み、変化は更なる変化を生んだ。

時を駆け、積み重なった変化は水銀を大きく変えた。

それは、銀の塊としてそこに存在していた。

海の底で蠢くその銀塊は、静かに、確実に、大きく、多く、賢く、強くなっていった。

星が再び輝くことを想って。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1672y/>

なぜ何もないのではなく、何かがあるのか？

2011年11月16日18時12分発行